研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-11C		20-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption, drinking patterns and cancer incidence in an Australian cohort of 226,162 participants aged 45 years and over
45 歳以上の 226,162 人のオーストラリア人コホートにおけるアルコール消費量、飲酒パターンおよびがん発生率

執筆者

Sarich P, Canfell K, Egger S, Banks E, Joshy G, Grogan P, Weber MF.

掲載誌

Br J Cancer. (2021) 124:513–523; https://doi.org/10.1038/s41416-020-01101-2

キーワード	PMID
アルコール消費量、飲酒パターン、がん発生率	33041337

要　旨

背景： 国際的に、全体的なアルコール消費量は、多くのがんのリスクを高めることが知られており、オーストラリアのがんの 2.8%、世界のがんの 5.5%がアルコール消費が原因と推定されている。しかし、オーストラリアにおける、飲酒のパターンと数種類のがんの発症リスクに関するエビデンスは限られているため本研究が行われた。

方法： オーストラリアの前向きコホート研究である 45 and UP　Study の 45 歳以上の 226,162 人（2006 年～2009 年）を対象に、全体的なアルコール消費量（飲酒量／週）および飲酒パターンに関連した数種類のがんの発症リスクに関する調整ハザード比（HR）および 95%信頼区間(CI)を Cox 比例ハザード回帰を用いて算出した。原発性がんの発症例は、Centre　for Health Record Linkage による 2013 年までの New South Wales Cancer Registry との結合により確認された。

結果： 調査年数の中央値 5.4 年の間に、17,332 件のがんが診断された。アルコール消費量の増加は、上気道がん（HR=1.19;CI=1.10-1.29）、口・咽頭がん（HR=1.18;CI=1.08-1.29)、食道がん(HR=1.22;1.04-1.43)、大腸がん(HR=1.09;CI=1.04-1.15)、結腸がん(HR=1.13;CI=1.06-1.20)、肝臓がん(HR=1.22;CI=1.04-1.44)、乳がん(HR=1.11;CI=1.02-1.21)のリスク増加と関連していた。週に 14 杯以上の飲酒をしている女性は、乳がんのリスクが高く、それらの飲酒が週の 4～7 日に亘るよりも、同量を週の 1～3 日に集中して飲む方が、乳がんリスクが高かった。（交互作用の P 値=0.049）。
また、週当たりの飲酒日数と週当たりの飲酒量の相互作用はなかった。

結論： アルコールの消費は、がんの有意なリスクをもたらし、飲酒パターンは乳がんのリスクとは独立した関係があるかもしれない。